

特集 2

絆 シリーズ

“親子 おやこ”

56年の歳月を経て、2020年再び東京でオリンピックが開催されることになりました。戦後の焼け野原から復興を遂げ成長してきた日本とともに、不動産業界も歴史を刻んでまいりました。それは経済成長による地価の上昇からバブル崩壊による下落と激動の時代だったとも言えます。

不動産業は人と人との繋がりです。時代は移り変わっても、変わることはない絆について今一度見つめ直し、語り継いでいきたいと思います。まさに、親子は命をつなぐ原点です。

世代間のギャップを浮き彫りにしながら、親から子へ受け継がれ守り続けていくもの、共に働く親子の絆を伝えたいと思います。

大手とは違った、まちの不動産屋さんのあたたかい雰囲気を伝えられたらと思います。



光正不動産

住所 台東区松が谷3-3-14
TEL 3844-6048 FAX 3844-3266



和田 奈美江さん
(母)

宮内 友里さん
(娘)

Q 御社の創業はいつですか？

(母) 昭和36年5月に私の父が始めました。それから、ずっとこの同じ場所で、同じ建物で商売させていただいております。

Q お母様のご兄弟は？

(母) 私は、三姉妹の三女です。上二人は主婦です。

Q お嬢様のご兄弟は？

(母) 長女は、今結婚してニュージーランドに住んでいます。で、こちらは次女。その下にサラリーマンをやっている長男がいます。

Q 先代のお父様はどのような方でしたか？

(母) 面倒見が良くて、それこそ、よろず相談所みたいな。人が来ると持っている物みんなあげちゃう、着ているジャケットも脱いであげちゃうような、お金儲けに興味の無い人でしたね。年柄年中、人の世話を焼いていて。お仲人もね、何十組やったかわからない。それも結婚するからお仲人お願いっていうんじゃないのよ。「あそこに年頃の良い子がいるから、どうだ、結婚したら」っていうのをやっていたのね。それで結婚するまで世話を焼いて。商売じゃないのにね(笑) そうして、鯛のお頭作ってここで結婚式を挙げて。昔はね、今とは時代が違うから、「行ってきます」って新婚旅行に行ったら、「ただいま」ってここへ帰ってくるの。で、半年とか一年とかここに一緒に住んで、それから独立していく。どことも結構そんな感じだったんですよ。信じられないでしょ(笑) だから、いつも他人と一緒に住んでいた。本当に何やっていたんだかね。面白い家でした。

Q 下町っぽい感じだったんですね。

(母) すごく賑やかで、いつもここで宴会やるのね。だからお酒は切らしたことない。皆さんお子さんを連れてきたりするでしょ。そうすると、「宿題はいいから、こっちへきて一緒に遊びなさい」って言われて、私はお勉強やらせてもらえなかったの(笑) 女の子は仕事するもんじゃないって言われていたし。そういう人でした。ちょっと変わっていたわね。そんなんで、父は仕事を一生懸命していた印象はないのよね(笑)

Q お嬢さんにとっての、お祖父様はどのような方でしたか？

(友里) すごく優しい、あまーいおじいちゃんでしたね。



Q お父様は、跡を継いで欲しいとは思っていなかったようですが、後を継ぐようになったきっかけは何ですか？

(母) それは、私の離婚です。私は、友里の父親と一緒に埼玉の越谷で建売の会社をやっていたんです。元々は(株)ポラス(ハウスメーカー)に勤めていて、そこから10人で独立して。忙しかったから、お昼私がお飯炊いてみんなに食べさせたり、夜はアルコールに変わったりしてね。会社は良かったんですけどね、まあ、色々ありまして、離婚しようかなって思っ。そうすると、ここで働くのが一番楽かなって、昭和63年にここに手伝いに入ったんです。その時はもう、父は脳梗塞で倒れて半身不随。母が集金管理をしていましたから、母としては丁度良かったのかも。それで昭和63年の12月に宅建の試験に受かって、主任者証をもらったのが翌平成元年1月。その年の3月に父は亡くなりました。母は資格を持っていなかったからギリギリセーフ。取引主任者証を見せたら喜んで泣いていましたけど、それが唯一の親孝行かなって。

Q お嬢さんは、お幾つ位の頃でしたか？

(友里) 大学卒業間近の頃です。まだ、越谷に住んでいましたから、浦安まで大学に通い、帰りに八丁堀でアルバイトしていました。居酒屋で。ご飯食べさせて貰えるから(笑)

(母) 子供達は大変でしたよ。それぞれね、よく頑張ってくれて。

(友里) 大変だったけど、楽しかったよね。

(母) 楽しかったね。何とかなるものです。

Q お母様が会社を引き継がれてからは、いかがでしたか？

(母) 父が亡くなって何も考えずに会社を引き継ぎましたけど、それからが大変でした。私も埼玉の時に一応不動産関連の会社を手伝ってはいましたけど、それこそ事務の女性はいまし、

営業はいたして、私はみんなのご飯炊きと掃除くらいの感覚でしたから。だから、何にも知らなくて。母は集金管理しかわからないし、契約書も作れないし、どうやって今までやってきたのか不思議なくらい。母は信用だけで、大家さんは皆さん「お宅のお母さんが良ければいいわよ」って言って下さるけど、私にしたら怖いなこれって、少し頑張らなくちゃって感じでした。私も生活があるから、売買をやらせてくれて母に頼んで。ご近所の売りたい買いたいを繋ぐだけで、お仕事にはなったんですよ。だけど、書類とか手続きとか、私何にも知らなくてどうしようかなって。そしたらね、越谷にいた時の会社の人達がみんな助けてくれたの。今でも何かあると助けてくれるんですよ。有難いことに。

(友里) 昔ご飯食べさせていて、良かったね(笑)

(母) そうかもね(笑) 越谷の家も同じでしたね。いつも誰かしらいたしね。

Q お嬢さんが一緒に働くようになった経緯は？

(友里) 以前は、吾妻橋のところに派遣で勤めていたんですけど、娘が小さかったので、熱出したっていうと母が保育園に迎えに行き面倒見てくれたりして。通勤も子連れで大変だったし。

(母) 何となく生活するのに都合の良いようにしてきたら、こうなったって感じです。

この人は、もともと大学を卒業して、スタート(不動産会社)に勤めたんですね。それで、すぐ結婚しちゃって。

Q では、最初に不動産会社を選んだのは、お母様のお仕事を手伝う気持ちがあったんですか？

(友里) うーん、あんまり考えてなかったかな(笑) 普通の就職活動の中で自然に。浦安の大



学の不動産学部だったので、地元の大きな会社ということで。何となく誘導された感じですかね。大学も、「こんな所があるよ」って不動産学部を勧められて(笑)

Q お母様から見て、小さい頃のお嬢さんはどのようなお子さんでしたか？

(母) とても静かで丈夫で(笑) すごく良かったですよ、手のかからない子で。上と下の子は体が弱くて、医者から離れられなかったの。でも、この子はどうやって大きくなったのか、あんまり覚えていない(笑)

(友里) ひどい、記憶にない(笑)

Q お嬢さんから見て、ご家庭ではどのようなお母様でしたか？

(友里) お察しの通り、父の存在が薄い家庭でしたので、母が家庭を仕切っていました。ちょっと普通のお母さんとは違ってましたね。

(母) そうね。普通のお母さんでできなかったもんね。

Q 一緒に働くようになってお互いの印象は変わりましたか？

(母) うんと小さい時から、この子はしっかりしていると思っていたんですよ。堅実タイプ。

昔ね、姑に「この子は天下取りの手相をしているから、この子が後を継ぐよ」って言われたことがあるんですよ。で、そうなっちゃうもんね、不思議ね。

(友里) 洗脳です(笑)

(友里) 普段はそそっかしい母ですけど、いざという時の集中力とか発想の転換とか、徹底的に調べるところとか。やらなきゃならないことは時間を惜しまず、たとえ夜通しでも仕事をするとところとか。すごいもんだな、なかなかできないなって思います。

(母) へえー。ありがとうございます。

Q 自分と似ている部分、違う部分は？

(母) 似ているところは、気が強いところかな。かなり気が強い。わがままも似ています。マイペースだし。自我が強い。よく言えば芯がある。心配は無いですね。長女も私の姉も、二人はよく似ているって言います。

(友里) イベントごとが大好きなので、その行動力とか、遊ぶぞって決めた時の発散の仕方は似ちゃったなって思います。私も、定期的にイベントを作っています。

違うところは、私はどちらかというと考えが堅実というか、硬い方に行きがちだけど、母は発展家で宇宙人みたいな感じです。

(母) 私は変わったことが好きなのね。こちらは常識的(笑)

Qお母様の尊敬する所はどんな所ですか？

(友里) 仕事に対する姿勢ですね。結構相談事が多いですけど、商売という観点からじゃなくて、お客様第一にお客様の立場に立って考えて、相談を受けているところです。

(母) 父の代から、光正不動産自体がそういう姿勢でやってきて、それで続いてきたのかなって思うんですよね。同じ場所で50何年って、普通だったら、もっと商売大きくなっているでしょうけど、それも光正不動産の特徴かなって思います。

Qお嬢さんもなかなかやるな~と思う所はどんな所ですか？

(母) 仕事はとても上手。ポイントを押さえてきっちりやるので早いし。高い授業料払ってお勉強させた甲斐あるかなって(笑)これからすぐく楽しみです。

Q今後についてはどのようにお考えですか？

(母) お客様のことを考えると、継いでくれたらいいなとは思っていますが、嫁に出した立場なのでね、子供と家庭が大事ですから、私にも遠慮があります。ご主人とあちらのご両親がお仕事続けたらって言って下されば、継いでもらいたいですね。

うちの会社は、きめ細やかに丁寧に、損得抜



きでご相談に乗っている件も多いんですね。うち従業員は女の子ばかりなので、可愛そうだけどお給料も安いし、経費を抑えて何とか回っているのかな。だから、そういう案件は、なかなか他では出来ないんじゃないかなって思っています。

今、人数が増えて女の子ばかり6人働いていますが、彼女たちにも生活があるし、家庭の事情も様々ですから、商売を続けていくことは従業員に対しての責任でもあるので、細々でも良いから助け合って続けていってくれば、安心かなって思っています。

(友里) 従業員男性お断りってわけじゃないんですよ(笑)

(母) でも、ないわよね~、この中に男の人入れないと思うわよ(笑)

Q最後にお互いにメッセージをお願いします。

(友里) 母も60歳半ばですから、体の事を気遣いながら、少しずつ仕事をセーブしていくのが本当は良いんでしょうけど、まだまだ私は歴かじりなので、現役続行で頑張ってもらいたいです。宜しくお願いします。

(母) 子供もいるし、長男の嫁という立場もあるし、仕事もあるしで、本当に大変だと思うんですよね。子供の頃は丈夫だったんですけど、色々神経を使うからか、今は内臓系がちょっと弱いかなって見えています。まだ若いって言っても、一年一年年取るし、皆を支える立場になるわけだから、無理しないようにね、自分を大事にして、頑張ってもらいたいです。

